

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第1回弘前城跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成30年10月1日（月）
開 始 ・ 終 了 時 刻	10時00分 から 12時00分まで
開 催 場 所	弘前市緑の相談所集会室および弘前城跡二の丸（弘前城情報館周辺）
議 長 等 の 氏 名	福井敏隆（弘前市文化財審議委員長）
出 席 者	関根達人、瀧本壽史、三上千春
欠 席 者	千田嘉博、田中哲雄、麓和善
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	（弘前市都市環境部公園緑地課）公園緑地課長・神雅昭、同課弘前城整備活用推進室長・古川勝、同室総括主査・笹森康司、同室総括主査・横山幸男、同室主査・蔦川貴祥、同室主事・福井流星、同室主事・一戸夕貴、同室技師・新山武寛、同室主事・今野沙貴子（記録） （弘前市教育委員会文化財課）文化財課長・成田正彦
会 議 の 議 題	（1）委嘱状交付・組織会（委員長・副委員長の決定） （2）現在の整備状況について （3）今後の整備について
会 議 結 果	（1）委嘱状交付・組織会（委員長・副委員長の決定） ・委員長に福井敏隆委員、副委員長に関根達人委員を選任。 （2）現在の整備状況について ①本丸南馬出し石段 ・本丸南馬出し石段の整備工事は平成29年度に実施し、平成30年4月より共用を開始している。階段上部は従来通り石段として、階段下部は豆砂利舗装の階段として整備した。 ②二の丸・弘前城情報館 ・ガイダンス施設として整備した「弘前城情報館」は、平成30年4月20日よりオープンしている。通常9時から17時まで開館しており、入館無料である。4月の「弘前さくらまつり」期間は、21時まで開館時間を延長している。 ・展示のタッチパネルに誤字が散見されるので、修正が必要。また、タッチパネルのほかに解説シート等、他の展示方法も導入するべきである。 ③二の丸・弘前城情報館周辺遺構整備 ・情報館周辺の遺構整備は、平成30・31年度の2ヵ年で実

	<p>施する。平成30年度は、情報館北側に隣接する城道、馬場跡に伴う小土塁（南側）および御高覧所跡、御宝蔵跡を整備する。</p> <p>(3) 今後の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二の丸馬場跡に伴う小土塁の東側および情報館より北側の遺構については、平成31年度に整備する。馬場跡の整備が主となる。 ・馬場跡と重複しているポンプ施設については撤去の上、西側に移設する。新設するポンプ施設は、平成31年度に建設地点の発掘調査を実施の上、遺構を壊さないように建設する。 ・二の丸東門付近の物置小屋については平成30年度中に撤去予定であるが、近世の絵図に見られる小土塁の屈曲部と重複する地点であるので、平成31年度に発掘調査を実施する。
<p>会議資料の名称</p>	<p>① 弘前城跡整備指導委員会運営規則 ② 平成30年度 第1回弘前城跡整備指導委員会</p>
<p>会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>(1) 委嘱状交付・組織会（委員長・副委員長の決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・瀧本壽史氏（弘前大学教授）が、今回より弘前城跡整備指導委員として着任。 ・委員長に福井敏隆委員（弘前市文化財審議委員長）、副委員長に関根達人委員（弘前大学教授）を選任。 <p>(2) 現在の整備状況について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本丸南馬出し石段と二の丸の整備状況について、現地確認を実施する。 <p>①本丸南馬出し石段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本丸南馬出し石段は、本丸南馬出しと西の郭をつなぐ78段の階段状園路である。総延長51.5m、幅員2.16m。 ・本丸南馬出し石段の整備工事は平成29年度に実施し、平成30年4月より共用を開始している。全体的に階段状に復旧した。 ・階段上部の石段を整備するに当たっては、基本的に従来の石材を再利用する方針をとったが、中には傷みの激しい石材も少数だが認められたため、それらについては新補石材に交換する対応をとった。 ・階段下部は、豆砂利舗装で整備した。豆砂利舗装の詳細については、既存の園路に合わせることを意識して決めた。年数が経てば、舗装の色味は黒色に近づいていくものと思われる。

(委員会)

- ・本丸南馬出し石段は、秋になると非常に紅葉のきれいな場所である。写真愛好家も多く訪れる地点なので、長く紅葉を楽しめるよう、夜間照明をお願いしたい。

②二の丸・弘前城情報館

- ・ガイダンス施設として整備した「仮称二の丸利活用施設」の正式名称は、「弘前城情報館」と決まった。平成30年4月20日よりオープンしている。展示室は通常9時から17時まで開館しており、入館無料である。トイレについては、24時間使用可能。開館時のみの使用に限定されるが、授乳室も設けている。
- ・館内の展示は、タッチパネルによる「津軽氏と弘前城の歴史解説」「情報館周辺遺構とリンクするガラス投影映像」「弘前市内の文化財の映像」という3本の柱で構成される。
- ・展示室にはベンチを設けており、無料休憩スペースとして開放している。
- ・4月の「弘前さくらまつり」期間は、21時まで開館時間を延長しての対応としている。
- ・展示に対する今後の対応としては、石垣修理に関する内容を更新していく。

(委員会)

- ・展示のタッチパネルに誤字が散見されるので、修正すること。
- ・タッチパネルの展示は閲覧に時間がかかる上、一度に展示を見られる人数が少数に限られる。閲覧時間と待ち時間、両方が必要という状況では、本当は展示を見たいのに見られない来園者が多く出てきていると予想する。タッチパネルにするまでもないような内容については、解説シートを用意する等、他の展示方法も導入するべきである。
- ・情報館の運営に当たっては、同じく弘前公園内にある市立博物館との情報交換を密にすること。お互いの展示内容を高めたいけるような関係性が望ましい。
- ・展示室壁面のガラス投影映像と、整備した周辺遺構の整合性をとるのは難しい。注意して対応すること。

③二の丸・弘前城情報館周辺遺構整備

(事務局)

- ・情報館周辺の遺構整備は、平成30・31年度の2ヵ年で実施する。

- ・平成30年度実施分については、現在工事着手中である。平成30年度の整備内容は、情報館北側に隣接する城道、馬場跡に伴う小土塁（南側）および御高覧所跡、御宝蔵跡となる。
- ・馬場跡に伴う小土塁は、城道のレベルより90cm高く盛土して整備し、盛土上に植栽を設ける。なお、公園管理用車両の出入りのため、小土塁には一箇所切れ目を設けることとする。
- ・御宝蔵跡の遺構表示は、雨落ちとその他の部分で舗装の色を変えて平面表示とした上、解説看板を設ける。
- ・御高覧所跡についても平面表示とし、柱穴位置には高さ30cmの柱を立ち上げ、解説看板を設けて整備する。
- ・弘前城情報館の北側に隣接する「城道」は、現在仮整備中である。平成30年度中に、正式な整備を実施する。
- ・二の丸東門付近にあるトイレ（閉鎖中）と物置小屋は、平成30年度内に解体・撤去予定。

(3) 今後の整備について
(事務局)

①本丸南馬出し石段

- ・本丸南馬出し石段下（西の郭）の園路舗装工事には、10月2日より着手する予定。この舗装については、予算の関係で暫定の内容になっている。

②二の丸・弘前城情報館周辺遺構整備

- ・馬場跡に伴う小土塁の東側および情報館より北側の遺構については、平成31年度に整備する。馬場跡の整備が主となる。
- ・雨天休憩所2棟は馬場跡と重複するので、平成31年度に撤去する。
- ・雨天休憩所と同様、馬場跡に重複するかたちで重要文化財防火に関わるポンプ施設が設けられているが、こちらも従来の施設を撤去の上、西側に移設する。新設するポンプ施設建設に必要な面積は10㎡程度であり、平成31年度に建設地点の発掘調査を実施した上で、遺構を壊さないようなかたちで新設したい。
- ・二の丸東門付近の物置小屋については平成30年度中に撤去予定であるが、近世の絵図に見られる小土塁の屈曲部と重複する地点であるので、平成31年度に発掘調査を実施する。
- ・整備範囲における樹木の扱いについては、若く小さなものは伐採する。ただ、桜については市民感情があるため、若くてもできるだけ残す方針とする。基本的には、重要文化財であ

	<p>る二の丸辰巳櫓の顕在化のため、伐採する必要のある樹木にはしかるべき対応をして、徐々に木を減らしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「きたこぶし」等、馬場跡の小土塁端部に収まるかたちで生えている大木については、少なくとも幕末には存在していたと考えられるので残す。樹齢推定は、公園緑地課の樹木医が行っている。 ・現在、園内は芝生と園路の境に段差が生じるよう整備されているが、今後の整備ではこの段差を無くしていくようにする。
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・オブザーバー出席等 <p>(青森県教育庁文化財保護課) 文化財保護主幹・葛城和穂</p>